

活動の場所

京都府京都市北区大北山
(アカマツ林)



活動目的

京都は北、西、東が山で囲まれ京都三山とも言われており、もともとはアカマツ林が優占する森林でした。そういった京都らしい森林が伝統行事や文化に根付いており、例えば五山送り火や祇園祭の山、各地の旗立松といった京都らしい伝統行事が今も引き継がれてきたり、寺院からの借景景観としてアカマツが庭園に植栽されたりなど文化的価値が高い森林です。しかし、近年山に人が入らなくなったことから、マツノザイセンチュウなどの病害虫がアカマツを枯死させ、枯死した環境ではソヨゴが優占し、アカマツの風景が失われつつあります。アカマツが成木になるまで35年～50年が掛かると言われています。こういった自然課題や伝統行事・文化的課題を背景に、アカマツの風景を次世代に繋いでいくには維持管理等の活動を今始める必要がありました。

活動内容

健全なアカマツを残し、アカマツの実生が育つ環境を維持するため、枯死したアカマツや成長したソヨゴ等の伐採などの維持管理作業を行います。アカマツ林にはマツグミなど希少種が生育しています。アカマツの維持管理とともに、こういった希少種保全も行っています。

■整備前の環境



■整備後の環境



PRしたいポイント

京都らしい植生である、アカマツ林を維持・再生するには継続した維持管理が必要です。アカマツ林を再生することは、結果的には京都の伝統行事・文化的価値を高めることに繋がります。私たちは、京都の自然を守り、伝統行事・文化を次世代に繋ぐために活動を行っています。

活動効果、今後の展開 等

事業対象地である大北山は左大文字（五山送り火）と連続した山並みです。五山送り火は京都を代表する伝統行事の1つです。こういった大きな伝統行事は、京都の強みである観光との関連性が深く、環境を守り観光へと繋げることが理想です。

今後、整備活動の輪を広げていくために、宿泊施設等や大学機関等と連携しながら、維持管理活動を展開していく予定です。